

AZ-COM桃太郎 「一元管理による支援物資輸送の効率化」

一般社団法人AZ-COMネットワーク
AZ-COM丸和ホールディングス株式会社
株式会社丸和運輸機関

災害・防災への取り組み



「阪神淡路大震災」
1995.1.17

- ・関東から広域的な物流支援を実施



「東日本大震災」
2011.3.11

- ・外食業者、家具専門店、嗜好品メーカー等の物流支援を実施
- ・自衛隊の飲料水の調達協力を実施（1日10万本）



「熊本地震」
2016.4.14~16

- ・「熊本地震」店舗内復旧作業に着手しお客様より感謝状授与。
- ・「北海道胆振東部地震」



「北陸豪雪」
2022.12.20

- ・「2019年9月台風15号」災害物流支援発動
- ・「2020年7月熊本豪雨」災害物流支援発動
- ・「2022年12月北陸豪雪」災害物流支援発動
- ・「2024年1月 能登半島地震」災害物資支援



「能登半島地震」
2024.1.1

自治体訓練へ参加



東京都訓練

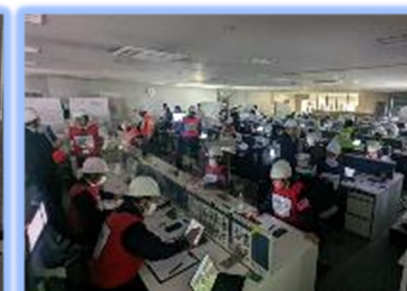


横浜市訓練



神戸市訓練

社内 災害対策室訓練



1. 支援物資輸送には国・自治体・民間企業など様々な主体に係る為、車両の位置や稼働状況の一元管理ができていない
2. 物資を積載した車両の【行先】【積載物資】【運行状況】などの共有がされておらず、集積所や避難所間の輸送計画変更などの柔軟な対応が難しい



- ・輸送車両の不足
- ・物流拠点での物資滞留
- ・被災者ニーズと支援物資にズレが発生

課題解決するには？

SOBO-WEBで取得した被害と拠点情報に
車両位置情報が加われば課題を解決できるのではないか？

【データの掛け合わせ案】

「道路関連情報」 × 「被害情報」 × 「重要施設」 + 「広域・地域内輸送拠点」
+ **「支援物資輸送車両情報」**

考えられる効果

物資配送の「見える化」

現場調整力の強化



迅速な情報共有

ドライバーの安全確保

SOBO-WEB表記イメージ

B-PLo で連携された詳細情報が画面横に詳しく出るとなおよい。
車両ナンバー、物資種別、避難所名などでCSVにデータを引き
出せたり、フィルタリングや検索機能があれば、各主体毎に見たい
情報を素早く見ることができる。

要請元：国（物資調整担当）
輸送事業者：AZ-COM
車両番号：1111
車格：10 t ウィング
出発地：東京臨海広域防災公園
（有明の丘）
目的地：板橋トラックターミナル
積載：飲料水400箱
備考：国プッシュ型
支援物資輸送指示番号【2】

B-PLo輸送指示書のQRコード

車両位置を地図上で表示
視覚的にわかりやすくステータスを色で区別

凡例

- 走行中
- 空車
- 停車

車両情報取得のアイデア

1.B-PLoの輸送指示書QRコードの活用

2.車両管理システム(TMS)の導入

3.GPSタグやRFIDの活用

4.災害時の操作

配送された物資に対して到着確認（共通）

輸送指示書のQRコードを読み取ることで到着確認

輸送指示書

輸送指示書のQRコードを読み取ります。

到着確認をすると、在庫として自動的に入庫登録されます。

必須項目を入力し、確認ボタンを押下します。

内閣府防災 防災デジタル・物資支援担当
指定公共機関向け新物資説明資料より

車両マッチング機能強化

1. 支援車両の配送先別組合せ⇒リードタイムの短縮・支援機会損失の防止
2. 一元化することで各主体間で相互協力が進み「災害対応“ワンチーム”」化
3. ドライバーの負担分散・持続的な支援態勢の維持

能登半島地震の際に発生した…

「支援がしたいけれど支援車両の手配ができなかった」

「車両手配はできたけれど、車両の積載容量に比べ物資量が半分しかなかった」

などの課題が解決

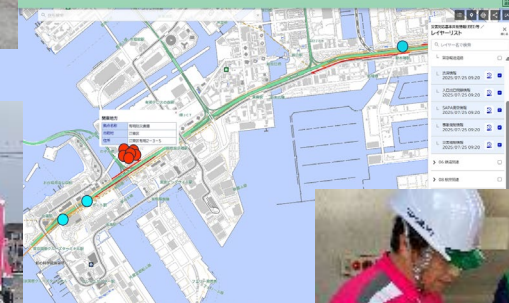
平時利用について

災害時に活用する為には、

平時から定期的に利用することが大切

1. 防災訓練への活用

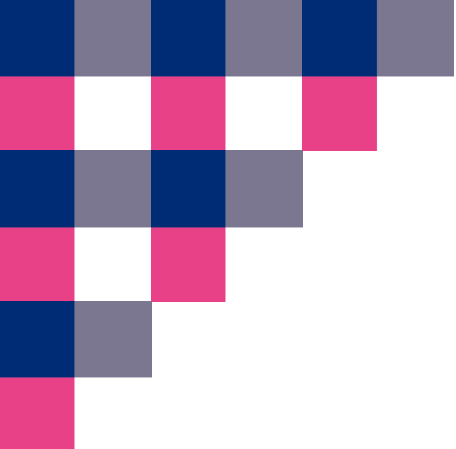
2. 日常業務での情報共有



AI技術との組み合わせ

1. 安全最優先の最適ルート提案
2. 物資の需給マッチング
3. 将来予測・シミュレーション

物資輸送車両情報はSOBO-WEBに必要不可欠



ありがとうございました

一般社団法人AZ-COMネットワーク
AZ-COM丸和ホールディングス株式会社
株式会社丸和運輸機関